

# JR東労組2024年旗開き



1月11日、目黒さつきビルにおいて「JR東労組2024年旗開き」を開催しました。年頭所感、ご来賓あいさつ、年頭のあいさつ、基調報告を通じて、特に安全風土再確立に向けて取り組む年とする決意を確かめ合いました。また、旗開き参加者で能登半島地震によって被災した仲間への緊急カンパを取り組み、41,917円を集約しました。(1月15日にJR西労の皆さんへ手渡しました)

## 基調報告(要旨) 加藤書記長

令和6年能登半島地震、日本航空516便衝突炎上事故によって、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

2024年になりましたが、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの攻撃は収束が見えません。JR東労組は「あらゆるテロにも戦争にも反対」という意思を貫き、戦争政策、軍事大国化の道に反対していきます。

会社は「グループ安全計画2028」を発表しました。「安全はトッププライオリティ」と言いますが、今の経営姿勢、施策、職場現実、安全よりも安定、サービスが優先で稼ごうとすることが至上命題となっていないでしょうか。

日本航空516便衝突炎上事故では、客室乗務員の冷静な対応で犠牲者を一人も出さなかった。危機管理に関しての訓練がきちんとされている証左だと思いますが、JR東日本では現在、車

掌の要員が足りず、訓練センターの訓練が受けられない職場が複数あると聞いています。事故の本質を見落としてはいけません。事故原因が究明できていない中ではありますが、やはり安全と安定は異なります。安全よりも運行が優先されてしまった、人道的な観点が起因した事象ではないかと感じています。

また、現在のJR東日本では、故障機器の張り紙がいつまでも剥がれない列車・車両がいくつも存在すると聞きました。取り換える部品が無いためにいつまでも貼られている状態が続いているとのことですが、これで安全が確保できるのでしようか?この状態をそのままにしておいていいのでしょうか?労働者の視点に立って真剣に考えていかなければなりません。

社員の質や中身、職場や仕事は大きく変化してきています。私たちは、今こそ、互いの系統の状況を把握し、業務に携わっていかないとならないと感じています。

車両メンテナンスは、国鉄時代から改革以降も、配属された職場で異動もせずに退職を迎えるという事は珍しい事ではありませんでした。平



ご来賓あいさつ  
JR総連 熊谷書記長

JR総連は、1月1日の地震で被災された各単組の組合員の救済や、地域の復興に向けてボランティアを含めて取り組まれます。また、東日本大震災の教訓が生かされたのかを検証・発信し、風化させないよう取り組む考えです。

岸田政権が掲げる賃上げは、リスキンングや、成長分野への「労働移動」が伴います。これを進めるためにジョブ型雇用が必須となり、年功賃金を廃止させようとしています。しかし「労働移動」というものは我々の思い通りに進むのでしょうか。50〜54歳で転職した人のうち、約53%の人は年収が減少し、300万円い

けば良いほうだとの声もあります。また、ベテラン層を「肩たたき」し、空いたところに若手のジョブ型雇用者を入れることも始まっています。春闘の形骸化に立ち向かい、JR総連春闘勝利に向けて共にたたかきましょう!



年頭のあいさつ  
東北協議会 佐々木議長

ローカル線の見直しにつながる動きとして、JRから土地や駅を譲り受けた場合の不動産取得税の免税が報道されています。自治体への資産譲渡が行われやすくなる言われ、上下分離方式の導入を促すものと考えますが、上下分離方式は自治体に鉄道の維持管理費が重くのしかかり、将来、自治体に鉄道の存続の判断が委ねられることにつながります。JR東日本として

変革2027の「5対5」を掲げている中で、ローカル線の見直しを進めようとしていると捉える必要があります。東北協議会は組合員の仕事と生活の場を守るべく、そして都市と地方の分断を防ぐことを掲げて取り組まれます。

組織破壊攻撃についても東北3地本で連帯し、跳ね返しつつ、組織強化・拡大をめざしていきます。そして今年には相互に学び合うために地本間・支部間・分会間の交流をつくり出していきます。本年もよろしくお願いたします。



年頭のあいさつ  
首都圏協議会 鶴ノ澤議長

新年から自然との向き合い方、安全を確保する難しさを考えさせられる年の始まりになりました。そしてテロや戦争で憎悪の連鎖が止まらない中、日本は「国を守るため」などの情報や教育等を通じて、憲法改正が必要だという世論が形成されています。だからこそ自分の言葉で語り、国民投票で反対に○をつけることのできる仲間をつくりましょう。

社長は、生産性やエンゲージメントの向上を掲げましたが、職場は、仕事をこなすだけで一杯、希望しない異動で意欲も上がらず、安全も危惧的な状況です。「新たな施策に対する5本柱」を対峙し、「この働き方が本当に良いのか」と議論し、検証して経営に立ち向かいま

す。そして24春闘は、各地方の集会を結果軸とし、要求実現に向けた組織拡大を、結集する仲間と共に創り出します。

※年頭のあいさつは、美世志会の山田代表、OB会の奥山会長、青年部の七ツ田副部長からいただきましたが、紙面の都合上、割愛させていただきます。

成10年採用までの世代は、旧世代から新系列への過渡期に入社してきているので、旧世代に対応できるだけの技術・知識を身につけてきたと言えます。

一方、現在採用されてきている人たちは、車両の進化に伴い、部品点数は減り今までの作業が消えています。検修手段においても「決められたものを交換する」というような作業になっていきます。また、予防保全という考え方が求められ検修の質が変わってきています。キャリアプランなども実施され、一つひとつの経験が薄く浅いものになっていきます。

人が減ってきて現場で苦勞するよりも、公募制異動や技術アカデミー等で早く現場を離れたという意識が蔓延している中、人を動かすことが目的としか考えられないような異動が頻発しています。そのようなことから一職場で技術・技能・知識を極めようという社員が育成されないが故に技術者が育っていないのが検修職場の現状です。

設備メンテナンスは、国鉄改革を経て1987年JR発足からの体制として、例えば、保線部門では、小さなエリアを保守・管理する管理室が複数あり、それを統括する現業区として保線区がありました。JR直轄で施工していたことで技術力が身につく、現場の事情やクセなど細かく把握し

ようとする「匠先意識」が醸成されました。しかし、2001年「技術センター化」と「パートナー会社との水平分業」が実施され、「区・管理室」体制が廃止されて技術センターとなり、保守エリアが広がることもJR直轄で施工していたことが広がるとともにJR直轄で施工していた多くの検査・修繕がパートナー会社へ移管されることになりました。併せて、シニア雇用の場として

技術力を持った多くのベテランがパートナー会社へ施策出向していきました。世代交代が加速する中、広範な保守エリアを少ない要員で保守・管理するためにデータ管理が主軸となり、JR直轄で施工していた検査や修繕も以前のように出来ないことから、技術力や判断能力が低下していく要因となりました。その後の2010年と2018年の施策によって、一定の検査周期で検査・修繕を行ってきたTBM(時間基準保全)から、モニタリング装置を使用し高頻度にデータを収集・分析するCBM(状態基準保全)へと転換しました。現在、JR直轄で行ってきた線路総合巡視

は、例えば、宇都宮線や京浜東北線などは、1週間に1回から、3か月に1回のペースに激減し、それを補完する形でモニタリング巡視を実施しています。

このように、車両、設備メンテナンスの状況が大きく変化してきていることを、運転士・車掌の皆さんは自覚しているのでしょうか。たとえ1分、2分の遅れでも「安全」を視点に積極的に報告をすること。些細なことでも空振りとなったとしても「安全」を視点とした報告を積極的にしなければ、改善がされないのです。事故・事象を隠蔽などすれば事故から学ぶことなど出来ません。事故から学ばないということは同じ失敗を繰り返すということです。

現在、労働組合を敵視し、自らのポイント稼ぎのために「お前は社員だろ」と躍起となって、職場で不当労働行為、パワハラ、暴力行為、懲罰的日勤教育に代わるハラスメントなどを働いている者たちが存在しています。一人の社員を死まで追い込もうとする会社の不当労働行為、パワハラ、暴力行為、懲罰的日勤教育に代わるハラスメントを断固許さずたたかいていきましょう!

2024春闘の具体的なJR東労組の統一要求・統一闘争は、2月の定期中央委員会で決定しますが、職場の運動づくりに拘り、職場のたたかいに組合員が参加する体制をつくり上げていきます。

今年、組織強化、拡大のために職場の運動づくりを強化することを課題にしています。そして、「私たちの鉄道事業をいかに担っていくのか」「職場の皆さんと議論していきたいと考えています。また、地方ローカル線の維持・活性化についても、運動をいかにつくり出していかくか議論をつくり出していきます。

そして、安全を最優先し、再発事故を防ぐために徹底した原因究明を取り組みましょう。「抵抗とヒューマニズム」を基底に、すべては組合員のためにたたかいていきましょう!

1月11日、旗開き終了後に引き続き目黒さつきビルにおいて「2024年新春の集い」を開催しました。各地本の代表者が出席したほか、多くの国会議員や秘書の皆さま、JR東労組議員団の皆さま、連帯する各団体の皆さま、OB会の皆さまにお越しいただき、平和・人権・民主主義を守るために共にたたかうことを盛大に確かめ合いました。

1月11日、旗開き終了後に引き続き目黒さつきビルにおいて「2024年新春の集い」を開催しました。各地本の代表者が出席したほか、多くの国会議員や秘書の皆さま、JR東労組議員団の皆さま、連帯する各団体の皆さま、OB会の皆さまにお越しいただき、平和・人権・民主主義を守るために共にたたかうことを盛大に確かめ合いました。

1月11日、旗開き終了後に引き続き目黒さつきビルにおいて「2024年新春の集い」を開催しました。各地本の代表者が出席したほか、多くの国会議員や秘書の皆さま、JR東労組議員団の皆さま、連帯する各団体の皆さま、OB会の皆さまにお越しいただき、平和・人権・民主主義を守るために共にたたかうことを盛大に確かめ合いました。

1月11日、旗開き終了後に引き続き目黒さつきビルにおいて「2024年新春の集い」を開催しました。各地本の代表者が出席したほか、多くの国会議員や秘書の皆さま、JR東労組議員団の皆さま、連帯する各団体の皆さま、OB会の皆さまにお越しいただき、平和・人権・民主主義を守るために共にたたかうことを盛大に確かめ合いました。

## 2024年 新春の集い

